

## ②企業大学訪問

私たちが訪問した伊東豊雄建築設計事務所は、仙台に馴染みのある「仙台メディアテーク」を始めとした多くの公共施設や、住宅などのデザインを手掛けています。

私は小学生の時にテレビ番組「劇的ビフォーアフター」を見てリフォームの匠をカッコいいと思い、建築士という仕事に憧れるようになりました。（伊東豊雄さんが開く伊東建築塾にも劇的ビフォーアフターを見て匠に憧れる生徒さんが多いそうです。）今回初めて本物の建築士に建築のお話を聞き、新たな発見ができ、自分が何をすべきか考えるきっかけをつくることができました。

はじめは仙台メディアテークどのようにして作られていったかを学びました。公共施設の建設ではよくコンペティションが行われます。様々な建築事務所がそれぞれの案を出して競い合い、審査を潜り抜けた後から細かい設計を組み立てていき、建設に入ると非常に長い行程を経てつくられるのです。仙台メディアテークも 200 近くの応募案の中から伊東建築事務所のデザインが採用され、今の市民に愛される形となりました。メディアテークはほぼ壁が無いので中にある柱（チューブ）が肝となっていますが、それらをどのような形にするか、どこに配置するかなどの図面が、手描きのものでデジタルのものたくさんあって、それぞれが設計において重要な工程だと聞き、その大変さに驚きました。その中に他の事務所の方の書き込みがしてある図があったのですが、伊東さんのところで考案されたデザインを形にするためにどのような素材使うと良いかなどの提案をしてもらっていたようです。伊東さん曰く、本格的な設計になると、外部の構造のエンジニアや設備のエンジニアの人、さらには現地の人も話し合わなければならないようなので、人とのコミュニケーション力を身につけておくことがとても大切だということでした。

また、伊東さんがメディアテークと比較して紹介してくださったのは「みんなの森 ぎふメディアコスモス」という図書館です。地域の方々からメディコスという愛称がついたこの建物は、外見は仙台メディアテークとは似ていませんが、中の構造などを似せてつくってあるそうです。どちらも子どもから大人までくつろぐことが出来、人々が集えるスペースがあることなどから2つの図書館の共通点があげられます。ただ、メディコスはいくつもの山があるような不思議な屋根が特徴的です。この屋根は薄い木の板を何層にも重ねて曲面を作っています。また、複数の山になっている下にはそれぞれ大きな布が傘状で吊り下がっていて、さらにその下に来た人がくつろげるような空間が置かれています。グローブと呼ばれるその布は外から来る日光を柔らかい光にかえたり、夏場と冬場で傘のてっぺんを開け閉めすることで空気の循環方法をかえたり、光や温度の調節で重要な役割を果たしています。そのおかげで来た人たちみんなが快適に過ごせるのです。とてもやさしい雰囲気のように、ぜひ訪れてみたいと思いました。

お話を聞いた後、実際の仕事場を見学させていただきました。さまざまな設計図が並べられていた他に、製作中の模型などを見ることができました。見ていく中で、模型はデザインを考える過程でとても大切なものだということがわかりました。建物のデザインを示す小さい模型から、基礎の部分などをより細かく示した模型、そして 1/1 スケールの実験のための模型まで、用途に合わせてそれぞれ大きさや示し方が違うのでとても興味深かったです。製作中の模型はちょうど学生さんが作っているところにお邪魔しました。大学では学生のうちに建築事務所に行って仕事をお手伝いしながら建築について学ぶそうです。自分もそのような学科に入ればできるのかなと思ひ、少しワクワクしながら作業を見ていました。事務所の方々が皆さん良い方で、優しく迎え

入れてくださったので、自分たちもいろいろなものを見ることができました。事務所では、何かデザインを作り出す時に一人で悶々と考えるのではなく、ベテランから若手までいろいろな人どうしてチームをつくり、議論します。それぞれが自分のアイデアを取り入れたいと活発に発言し、また他人の発言を聞いて新たなことに気づくことができたりするようです。伊東建築設計事務所を離れた後、表参道にある TOD' S に行ってみました。ガラスとコンクリートだけで構成された壁面がとても美しいのですが、このコンクリートの部分は通りにあるケヤキをモチーフにし、木の枝をパターン化してデザインしたそうです。また、お店の中にも様々な形でガラスが張られていて、照明やお店の商品をより際立たせているように感じました。TOD' S のお店の方に、暗くなるとライトアップが綺麗だと教えていただきましたが、見られなかったのが非常に残念です。

伊東さんは、建築は技術だけを磨いていけば良いわけではなく、様々なことに触れて、感受性を高めていくことが重要だとおっしゃっていました。デザインを考える上で、まず良い建築をたくさん見ること、そして様々なことに触れて新たな発見をすることがいいものをつくる手がかりになるとも教えていただきました。今まで建築の道に進みたいからといって勉強とと思っていましたが、それが間違っていたことに気づかされました。

今回の企業・大学訪問、伊藤豊雄さんのお話を聞く中で、建築への関心がさらに深まるのと同時に、ほかの色々なことに触れてみる大切さを知ることができました。

さらに、有名な建物を見て回りたい、何か新たな体験をしてみたい。そう考えるうちにだんだんと外国に行けばいろいろなものが見られるのではないかという思いが強くなってきました。大変なこととはわかっていますが、だからこそ実現させてみたいです。自分の夢を掴むための一歩目の目標を見つけたので、とりあえずその夢に向かってものがきながら、高校3年間で何か自分について新たな発見ができればいいなと思います。

### ③OBOG による懇談会

先輩方との懇談会では勉強に対する姿勢を学ぶことができました。どの先輩も非常に聡明で、どの話も納得させられました。それぞれが違った考えを持っていて、今まで自分になかった考えも手に入れることができたと思います。

中でも私がおもしろいと感じたのは、数学と哲学の話です。この2つの学問について、どちらも事柄の論理を証明するものだから似ている部分がたくさんあるということは思ったことはありませんでした。それを紹介してくれたのは法学部の先輩でした。ただしその先輩が言うには、数学の場合証明したものは覆らないが、哲学の場合は時代によって考え方が変わったり同時に異なる考えがあったりして答えがないというのが数学と哲学の決定的な違いだそうです。また、そこから派生して理系の学問は基本的に万人共通の解釈ができるが、文系の学問は人それぞれで解釈が違うというところまで教えてもらいました。このように普段は見つけることができない観点を見つけるには本（特に古典）をたくさん読むことがとにかく大事なのだそうです。また別の先輩からも、一年生の間に愛読書を一冊決めておくと言われたので、本を読むことはかなり重要であることがわかりました。

また、社会人の先輩からは今勉強に苦しんでいる私にとってとても美味しい勉強法を聞き出すことができました。先輩の言葉をまとめると、

- 1 点が取れないのが苦手な教科というわけではない
- 1 応用が出来ていないということはつまり、基礎が足りていない

1 自分の頭が一番働いている時間帯を探す

1 参考書に、書かれていないこと（解き方のコツなど）を書き込んで困ったらそこに戻れるようにする

そして最後には、高校で何に打ち込むかが今後の自分に大きく関わってくるという言葉をもらいました。今回出会った先輩方に追いつけるよう高校3年間で勉強に励みつつ、たくさん本を読み、自分が本当に打ち込めることを見つけたいと思います。